福山大学工学部紀要
第27巻 2003年12月

『金瓶梅』にみられる住まいの空間構成と女性の領域に関する研究 誕生と死の儀礼について

藤原美樹* 松本靜夫*

Study on the Room Arrangement and Women's Territory in the Novel " KIN PEI BAI " On the Ceremony of Birth and Death

Miki FUJIWARA Shizuo MATSUMOTO

ABSTRACT

This paper focuses on the sixth wife's ceremony of birth and death in various ritual initiations and examines how the two ceremonies affect women's territory. Women lived in an area "separated from the public" even "inside" a house. When a public ceremony was held in a drawing room, folding screen and bamboo blind were used to separate the continuity of the room and to hide women's territory. It becomes clear that women played a lot of roles for various rites. A marriage was a ceremony to take a wife from the outside to the inside. On the other hand, a funeral was a ceremony to send the dead off from the inside to the outside. Thus, It was found out that a court closer to the outside world also played an important role as a ceremonial site. The ceremony of birth was an extraordinary one accompanied with the notion that childbirth makes a woman unclean. A ceremonial site for birth was a special place like the one for the ceremony of marriage mentioned in the previous paper. In other words, a curtained small space was changed into a ceremonial place. Normally, a curtain was widely opened. Once it was closed, the closed space changed its nature and functioned as a special place. The baby's one-month-old ceremony was performed at a drawing room corresponding to an "outer space" of a house. In addition, this room was also available, as the main place, for the ceremony of death. In this way, the same place was used both on a pleasant and detestable occasion.

キーワード：室配置，封建家族，女性の地位，女性の領域，空間秩序
key woods : room arrangement , feudal family, women's status , women's territory, spatial order

1. はじめに

前稿では，『金瓶梅』にみられるすまいの空間構成の概要と女性の領域について考察を行った．明時代のすまい（家庭）の女性の領域は，塀と壁と扉で区分され，閉ざされ，社会から隔離されたものである．屋敷の塀の内側には，さらに「内」と「外」があり，正妻ほか女性たちは，「内」に暮らす．

その場所は，各夫人と侍女たちの小さな家族の住まいである．隔離された女性の領域は，夫が訪れる時のみ，非日常的な場所となる．

通過儀礼のうち，結婚の儀礼について，女性の領域との関わりの考察を行い，儀礼の過程のうち，贈答儀礼が重要な役割を果たすことが明らかになった．

ケの場所の設えとして，凳子(deng zi)や炕卓 (kang zhuo)があるが，これらは移動性が高く，外と内の連続性をもつ家具である．日常的な場所に儀式的な設えをすることで，非日常的なハレの儀礼の場所が構成される．女性の領域は，帳や簾によって空間の連続性が分断される．場所が閉ざされ，隔離されることで，非日常的な場所となる．

本稿では，通過儀礼のうち，誕生の儀礼と死の儀礼について，女性の領域との関わりを第六夫人の李瓶儿 (li ping er)に着目し，考察を行う．

*建築学科

2. 通過儀礼のハレ，ケ．ケガレ

Arnold van Gennep が，通過儀礼について，「ある個人の一生は，誕生，社会的成熟，結婚，父親になること，あるいは段級の上昇，職業上の専門化および死といったような，終わりがすなわち初めとなるような一連の階梯からなっているのである．これらの区切りのひとつひとつについて儀式が存在するが，その目的とするところは同じである．つまり，個人をある特定のステータスから別の，やはり特定のステータスへと通過させるところに目的がある[1]」と述べているように，儀礼は，連続する日常の中の節目であり，過去の identity から新しい identity を得，外へ向けて知らせるものである．

前稿で考察した，結婚の儀礼は，ハレの通過儀礼であるが，誕生の儀礼は，喜びの儀礼であると同時に出産という不浄な観念を伴い，死と再生の思想を含む通過儀礼である．

『儀礼（ぎらい）』17 篇には，冠婚・相見(そうけん，あいまみえること)・聘問（へいもん，礼物を携えて訪問すること）・葬祭などの儀礼の次第が記述されているが，それには生子・育子の礼がない．生子・育子は，公に対する私の礼である．その礼は，経としての『儀礼』に対する説明のための「記」すなわち『礼記(周末から秦・漢時代の儒者の古礼に関する説を集めた書をいう)』のうちの「内則」，私的生活における起居動作のなかに記述されている．

「妻が子を生むころになると、臨月のついたちに側室（常の居室の控え室）に入る。そして夫は使いをやって一日に二度見舞いをさせる。いよいよきざしがみえると、夫は自分で見舞いに来るが，妻は辞退して付添いの姆に礼服姿で挨拶をさせる．子が生まれると夫はまた使いをやって一日に二度見舞わせる．ただし夫が物忌みをしているおりであれば，（使者も）側室の中には入らない．（産室は汚れがあるという信仰のため.）」出産は穢れであると記述されている[2]．

婦人たちは，出産などのケガレのため，死後罰を受けて、血汚池の中に入れられるという恐れをいだいている．

「子供を生むときに女達は穢れた血を流してきたが，それは大地の神々を怒らせることであった．さらに女達は血に汚れた自分達の衣類を川や細流ですすいできたが，男や女はそこからこの汚れた水を汲んではお茶をいれて神々に捧げるのであった．こうした無礼を怒って神々が天界の兵を遣わすと，兵は善悪の本に罪人達の名前を記録した．そして死後に，彼女らは罰を受けねばならないのであった．[3]」

臨終前の李瓶儿が王尼（観音庵尼姑）に「血盆経（穢れを祓うための経，女人血盆経ともいい，仏経中の偽作)」を誦むよう懇願する場面がある（62 回）．女性たちの庶民的な信心は，現世の姿や輪廻についての思索ではなく，安心してあの世へ行き，地獄の鬼に会わないためのものである．

死も出産と同様に不浄であるため，隔離と禁忌でとり囲まれている．死の儀礼においては，神ごとに関わることはタブーであるが，出産の儀礼にみられるケガレに関しては，積極的に神ごとと関わりをもっている．穢れを祓う女性たちの役割と場所および儀礼の過程により，同一場所がハレにもケガレにもなることに着目し，考察をすすめる．

3. 誕生の儀礼における過程と場所

中国の家族にとって，子供，特に男子がいないことは，人生最大の悲しみである．孔子のことばに「子無き」を三大不幸中最大のものに挙げている．孟子には「不幸には，三つあるも，後なきを大とす」ということばがある[4]．誕生は人生の始まりであり，誕生礼は人生のはじまりの礼である．

前稿では，正妻はひとりであり，あとの夫人は，妾であることを述べた．正妻は妾の女主人であり，妾は正妻に従属するものである．妾はその女性の資質によって購入される．妾から生まれた子供は，正妻を母とする．

出産は，生命の危険を伴う，新しい生命の誕生の儀礼である．1 人の正妻と 5 人の妾の家庭の中で、新しい地位を得るためには、西門慶の血統を受け継ぐ、男子を出産することが，最も重要なことである．誕生に関する儀礼は，誕生以前の儀礼である「子結びの儀式」から，出産後の「洗三の儀式」，「弥月の祝い」など数々ある．産後つぎつぎと行われる儀礼は，ケガレ，忌が浄化されると同時に嬰児が社会へ入るための儀礼でもある．

「子結びの儀式」とは，子供を得るために，子授けの女神に祈る儀式である（図-1)．吳月娘は，院子（yuan zi，中庭）で，黙祷しながら線香を焚く(21 回)．また，毎月 7 のつく日の夜，院子に香几[6]，(図-2，上香用的桌子，shang xiang yong de zhuo zi，香を焚くために用いるテーブル，几案の内，大きいものを案，小さいものを几という[7]）を出し，香を焚き，天に向って祈る(53 回)．

「(西門慶が) どうぞ一日も早く心をいれかえて家の面倒をみてくれるように，わたくしども六人のうち，誰でも早く男の子を生んで一生の見込みを立てることができるようにと，お願いしていたのです（21 回)」．

この院子は，防御機能をもつ建物によってできたものであり，西側に位置する庭園（前稿，図－1）が曲線的であるのに対して，院子は，直線的，無機的で均一な場所である．

正房の前の院子が最も象徴的な祈りの場所である．

図-1　子結びの儀式
出典：[文献 5，p. 53]

図-2　香几
[文献 6，p. 1330]

第三进正房とは，吴月娘が居住する建物を指すが，进(jin, 進)とは，院子を数える量詞である．西门慶邸は，四进房子と表せる．それぞれの院子が意味をもち，进は，結界をつくる．院子は，敷物の上に即席の祭壇である香卓が設えられることにより，非日常的な祈りの場所となる．正妻の立場として，六人の内、誰でも早く世嗣を授かって一生の見込みがたつようにと祈る．また朝，沐浴と化粧をすませ，仏様を拝み，白衣観音経（佛教経巻）を読む（53回）．線香を焚き，蝋燭を灯して行う．一家の繁栄を祈るのは，正妻の役目である．

出産する部屋は，暗房（an fang，産屋）と称される（30回，図-4）．室として隔離された暗房に帳で囲われた帳床(寝台)がある．帳は単に事物的なものではなく，祈り，お祓いなどの宗教的な行為によって囲うものである．

寝台の帳は下ろされ，香が焚かれる．特に別屋(側室)へ移動せず，与えられている自分の住まいの帳床が出産のための特別の場所である（図-3，4）．暗房は，風が通りぬけないようにして，騒がしくせず，家具の移動も禁じられている[8]．

男子（官哥，guan ge）が誕生すると西门慶は，「天地祖先の位牌の前で，炉いっぱいに香をくべ，二百二十分のお祭りをすると告げ，母子の平安，分娩の慶び，出産の無事を祈りました．（30回）」

産婆さんは，嬰児を取り上げると臍の緒をかみ切り，胞衣（えな）を埋める．翌日，喜麺（祝いそば）を隣近所や友人たちに配ることで，子供が生まれたことを知らせる(30回)．

『礼記』にあるように，出産はケガレであるという観念にもとづき，李瓶儿と嬰児は，暗房で産前・産後約1ヶ月間を過ごす．

誕生の儀式は，出産後3日目に行われる．これを「三朝(san zhao)」という[9]．生後3日目に嬰児にはじめて産湯をつかう，「洗三（xi san)」の儀式は，暗房の寝台の傍らに桶をおいて，産婆さんによって行われる（図-5）．この儀式は，嬰児を洗いながら祝辞を述べ，災いを避けるものである．

「金瓶梅詞話校註」によると，桌上には「牀公牀母之像」が祀られていて，その前で香を焚き，丸い菓子を供えるとの記述がある．祭礼を司るのは，産婆である．神々の絵を並べ，蝋燭と線香に火をつけ，神々に叩頭(頭を地につけて拝礼すること)した後，神々の絵と飾り物を院子で焼き，儀式は終わる[10]．

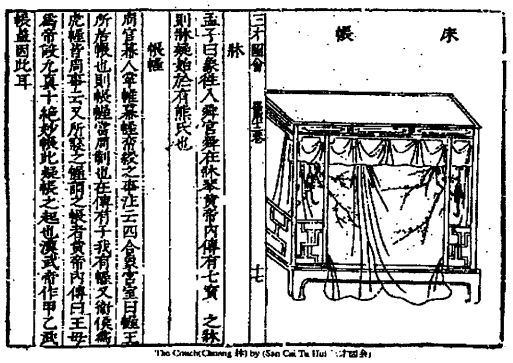

図-3　帳床　出典：[文献6，p. 1331]

男子には，この日に幼名がつけられる．一般に阿福(a fu)，官哥など吉利字眼を用いる．女子には，命名はなく，一娘(yi niang)，二娘（er niang)，大姐（da jie）などとよぶ．

「弥月の祝い（満月の祝い)」は，官哥が満1ヶ月になったとき、盛大なお祝いが行われる（31回)．

これは，1ヶ月間の間に，ケガレを祓い，私的な暗房から公的な外部の接客の場所であるハレの場所の大厅で行う，共食の儀礼である．食物により母親と嬰児に力を与え，家族，社会に迎え入れることを承認する儀式である．

「親類や隣近所の女たちが贈物を届けて、官哥のために弥月「満月の祝い」の祝いをいたします。大広間で女客を招いて宴席をもうけました（31回)」「(翌日）大広間に錦の屏風を立てめぐらして、豪華な酒席を設けます。あらかじめ招待状を出して、男客を呼んでありました。・・・（役人たちが祝いにきた）・・広間には12面のテーブル、幃は錦帯を張りめぐらし、花は花瓶に挿し、テーブルには簇盤定勝を並べ、床には錦綉毯、といった道具立・・(31回)」

祝いの宴会は，男性客と女性客は別に行われる．女性は極力，男性客の前に姿を現さない．

産後の女性の部屋は，誰でもケガレの影響を受けるので，数々の特別の儀礼によってケの場所へ変える必要があり，共食の儀礼が忌み明けとなる．

前稿の結婚の儀礼で考察した3人の女性は，いずれも再婚である．出産能力のある女性は金の卵を産む雌鶏であるという観念がみられる．潘金蓮の言葉に「・・あたしたちなんか，雌鶏買っても卵を産まず，ってとこなんだけど・・(30回)」

「(李瓶儿が)・・・あの子を産んでからというものは、旦那をそそのかして、まるで根でも生えたみたいに、自分を本妻に直させようとするもんだから、こっちは情けないかな、泥の中に踏みつけられるようなありさまさ・・・(58回)」この金蓮の言葉からわかるように，暗房は、自分が正妻でなくても、何番目の夫人であっても、男子を出産することにより、絶対的な地位を獲得し、主人の寵愛を得ることのできる女性の領域である。

図-4　李瓶儿　暗房
出典：[文献5，p. 61]

図-5　洗三の儀式(吴月娘暗房)
[文献5，p. 79]

4. 死の儀礼

4.1 儀礼の過程と場所

死の儀礼は，亡くなった人を生の世界から死の世界へ送り出す儀礼であり，残された家族にとっては，家族の死に対する受容の儀礼である．

『荀子』礼論編(荀子：前320年～前230，周王朝戦国時代)に，葬儀の意味について述べてある[11]．

「喪礼とは，死者に対し生者のように仕えるという意味をはっきりと知り，哀戚と恭敬の情を尽くして葬送し，手落ちなく埋葬すること以外にない．だから埋葬とは，その形体を敬み葬ることであり，祭祀とは，その神霊を敬み仕えることであり，その銘と誄と繫世とは，その名前を敬って後世に伝えることである．生きている人に仕える礼は初めを飾り，死んだ人を送る礼は，終わりを飾る．」

『金瓶梅』にみられる，死の儀礼と女性の領域についての考察を，息子の官哥の死後，看病の甲斐なく亡くなった，第六夫人（妾）李瓶儿について，臨終，納棺，葬式，出棺の儀礼の過程にそって行う．

臨終とは，死に臨むこと，死際のことであるが，死の儀礼は，死の直前から始まる．中国では，炕（kang）の上で亡くなることは非常に不幸なことであると考えられ，死の直前に家族によって，特別の寝台「牀（床，chuang)」に移さねばならないとされる．その後，屋敷内の儀礼の中心となる場所に運ばれ，家族に看取られ，死を迎えるのを理想としている[12]．

李瓶儿は，不幸にも，与えられた自分のすまいである，玩花楼の卧室（wo shi，寝室）の炕で亡くなる（図-6）．

「(小者たちによって）広間の書画を取り外し，幔幕や屏風を張り巡らします（62回）．」「(小間使いに）陰陽師の除先生を大急ぎで呼んで来させて，死んだ時刻をみてもらい，楷書を書いてもらうことにいたします（62回）．」

死の儀礼の中心となる場所は，公的な接客の場所である大厅（客厅，客間・ホール）である．室内に白い幔幕，帳などが設えられ，遺族である服喪者は，白衣，白靴，白頭巾などを着用することにより，非日常的空間が形成される．

陰陽師(地占い師のこと）は，納棺，埋葬などの重要な儀式の吉日を，死亡時刻に基づいて経典で調べて日時を算定する万能の占い師である．正しい儀礼が進行しなければ，残された家族に対して災いがあると大変恐れられており，儀式の吉日を決める役目をもつ陰陽師の判断は重要である．

「(儀式の日程をほうぼうの親戚に知らせた後，）漂白した薄絹を20巻、白木面を30巻取り寄せ、仕立て屋に、幔幕、帳、テーブル掛けを作らせ、次に経帷子と衾、腰帯、部屋部屋の女たちのひとえ上着と裙子をつくらせます。小者や下男たちにはそろいの白の唐巾と白の直裰（僧や道士が着る長い喪服）です．・・・(62回)」

女性が公然と悲しみを声に出すことにより（これを哭 qu という），近隣の人たちへも死の公告がされる．

視覚的には，社会との結界である大门（da men）などに貼る白い紙や氏名，日程などを記した「公告」により通知される．死の儀礼の場所は，視覚的にも聴覚的にも日常的空間とは異質であり，白色は，死の儀礼の象徴の色である．

李瓶儿の遺体は，女性たちによって，儀礼的な沐浴が行われ，あの世への旅立ちにふさわしい衣類への着替え「小殮」を行う．その後，遺体は戸板で担ぎ出され，大厅の正面に置かれた．机や香机をおき，燈をともし，ふたりの小者をそばにつかせて，ひとりには磬（qing，鉢形の楽器，仏具）を打たせ，ひとりには，紙を焼かせる．遺体の傍らに当座の祭壇を設え，供物として「紙銭（冥界の通貨)」が燃やされる．

これは，冥途にも貧富の差があり，貧者は生活難で、飢えや寒さに苦しむということから，モノを焼く行為により，モノが冥途に送られると信じられているため，遺族は紙銭を焼き，死者が金に困らないよう行う儀礼である．

納棺を行う「大殮」の儀礼は，死後3日目に行われるもので，遺体を納棺し，長命釘を打ち付ける．公的な儀式であり，釘打ちは儀式の核である．

納棺のすぐ後の儀式である「接三（jie san)」の儀式は，納棺後に死者の霊を確実に「棺」の中の遺体に留め，紙で作られた物を燃やすことで，あの世へ品々を送る儀式である[13]．納棺後，柩は，不浄が広がらないように，帳によって大厅の一角に隔離される．

儀礼の中心の場所に，親戚，友人，隣近所など大勢の弔問客が訪れる．

「(焼香のとき）親戚・友人・番頭たちも，すべて白頭巾に白装束をつけ，焼香のときは，門前は白一色になりました（63回）．」

西门慶は，白唐巾，喪帽，喪服，白の毛の靴下，白靴，喪の麻帯．陈经济（chen jing ji，西门慶の娘婿）は，喪服，麻の頭巾の喪の装いで男客に答礼し，正妻ほか夫人たちは，喪の髷，腰には麻帯，喪の裙子の装いで女客に答礼する．

李瓶儿の先夫の長兄と吴月娘の長兄は，喪の長袍，あとの者は，普通の喪服である．装いの白色の分量により，故人との血縁関係，親族間の序列がわかる．

図-6 李瓶儿臨終（62回）
出典：[5，p. 125]

図-7 芝居見物（63回）
出典：[5，p. 127]

この後のより公的な儀式のために，大门に近い，院子に机やテーブルが設えられ，儀式場が設けられる．

この場所では，接待や供物，金銭の取り扱いが行われる．供物を受取ったり，弔問を受けることも重要な儀礼のひとつである．

「中庭には，切り妻の大きな仮小屋を建てた．これには2つの入口また目隠しを挟んだ表側の台所にも3部屋幅の仮小屋を建て，表門の前には，7部屋幅の榜棚（アーチ）を設営した（63回）．」

誕生の儀礼における祈りの場所は，正房前の院子であるのに対し，外へ送り出す，死の儀礼は，より外部に近い院子が重要な儀礼の場所であることがわかる．

毎七（七日ごとに），僧侶による読経が行われるが，七日目，16人の坊さん，水陸道場（せがき）を行い，法華経をよみ，親戚，友人，番頭が全部集まるが，はじめに男客が供養して後に正妻ほかの女客が供養する．男性と女性は，同席することはない．その後の役者の一座をよんでの宴会は，女性たちは，同じ霊前の一廓を屏風で囲み，その中にテーブルをおいて，芝居を見物する．親戚の人たちや侍女たちは，簾の中から芝居見物である（図-7）．女性の場所は，屏風や簾で囲われ，隔離されている．この宴会の目的は，残された家族などの，そして時には彼らと死者との絆，ちょうど環の一つがぬけたために切れてしまった鎖のごとき絆を新たなものにするための過程である[14]．

出殡（chu bin，出棺，葬式行列）は，金の斧を担いだ「開路鬼」を先頭に，紅白の幟，燈籠，数々の亭，鼓楽，64名の杠夫によって担がれた棺を載せた轿，西门慶，親戚，友人たち，正妻の轿を先頭に夫人たちの轿，色街の女性たちの轿，最後尾に弓を持って正装した警備兵が馬にまたがり，2列縦隊で行われた（図-8）．高く掲げられた幟や吹流しや打ち鳴らされる銅鑼の音は，視覚的にも，聴覚的にも非常に華やかであり，周囲の人々に葬列を誇示し，墓地へ向かうことが大きな要素であり，家の財力を誇示するものでもある．

墓地（図-10）の前の丘には，帐篷(zhang peng，幕屋のこと，幕を張って設えた小屋)を設え，柩の到着を迎える．

図-8　葬式行列（65回）
出典：[5，p. 133]

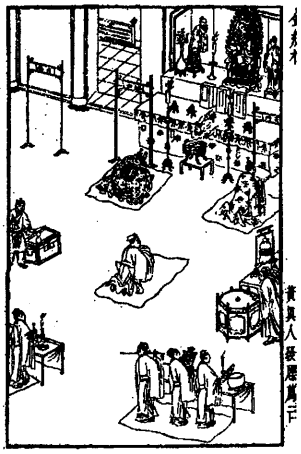

図-9　法要（66回）
出典：[5，p. 130]

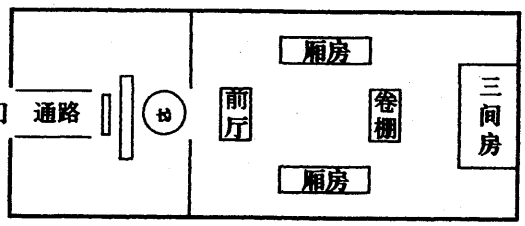

図-10　西门慶祖(墓地)平面図　出典：[16，p. 189]

家族や社会的な序列は，行列の配置により，家族内のあるいは社会的な序列を確認できる．それは故人との親密度により，男性，女性の順で並ぶ．沿道の見物人たちと一体となって儀礼は進行する．

「肖像画」の儀式，そして「成主（点主）」(位牌を完成させる）の儀式（死後3日目に，位牌に法名を認めるときに，「主」とせず，「王」としてあり，埋葬の際に点をつける儀式を行う．）これは，死者の魂を位牌に移す儀式である．

位牌の帰宅のための，魂轿（hun jiao，死者の位牌を載せるもの）には，正妻が位牌と魂旗を抱いて乗る．肖像画を載せた霊床（精霊壇）には，陈经济が付き添い，西门慶，親戚，友人たち，そして女性たちの轿が続く（65回）．

お礼の品と金銭をお世話になった白事（bai shi）の葬儀専門職の人たちに渡す，ケガレの金銭を支払う行為により，死の儀礼のケガレからケの状態に変化させるものであり，ハライの過程である．

死の儀礼の過程において，儀礼の場所がケからケガレになること，また帳を設えることで，不浄が広がらないよう仕切られる．

4.2　死の儀礼における女性の役割と場所

伝統的家父長制では，死の儀礼そのものは，男性主体で行われる．親戚や友人たちが弔問に訪れるときに，喪服を着た女性たちが行うことは，柩の後ろ側の白い幕の更に，裏側で泣くことである．

タブーの除去の方法としてArnold van Gennepによると，「タブーの除去はその形態およびメカニズムに関して，例えば神聖なる領地や女性に関するタブーの除去と同じで洗浄，清祓，共餐などがある．[15]」とある．

儀礼の過程において，女性の哭突は，死の公告の意味，死者を慰める意味と聴覚的な儀礼空間形成の意味をもつ．しかし，その女性の領域はけっして，おおやけのの場所ではない．

死の儀礼においては，遺体の世話をし，衣服を着せるのは，女性の役目である．そして死を公告し，死人を泣くことによって慰めるのも女性である．

ハライの行為により死のケガレを取り祓うことが女性たちの役目であることがわかる．ただし，その役目を担う女性たちの領域は，隔離された場所である．

死の儀礼の中心となる場所，内の中の「外」の空間である客厅は，女性の領域ではなく，公的な儀式の場合でも仕切ら

れ，隔離される．

儀礼において，男女の役割分担が明確であり，場所も異なる(図-9)．

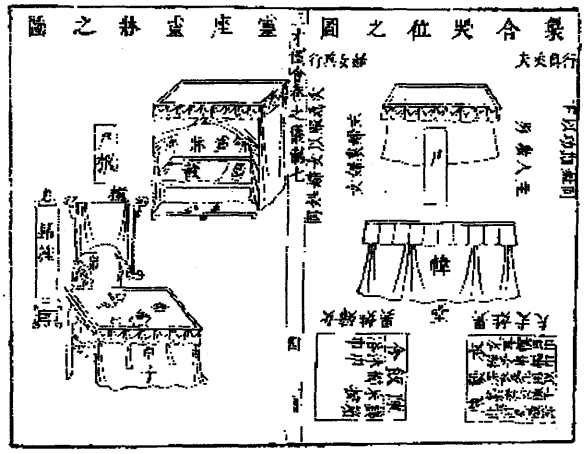

図-9 袭食哭位之图 灵座灵牀之图出典：[6, p. 1931]

5. まとめ

住まいの内側には，更に「内」と「外」がある．正妻ほか女性たちは，屋敷の「内」の中の更に「内」に暮らす．その場所は，夫人と侍女たちの小さな家族の住まいである．そして，この小さな住まいに出入りできる男性は，西门慶のみである．

祝宴など公的な儀礼などで，客厅に女性が居る場合は，屏風や簾などで場所の連続性が仕切られ，目隠しがされる．

天地の神々への祈りは，即席の祭壇として，「香卓」を設えることにより，院子が祈りの場所となる．

隔離された，女性のすまい（洞房）が暗房になることで、夫の寵愛を得，新しい地位を手に入れることができる．しかしそれは，出産というケガレを伴う儀礼であるため，数々の儀礼を要する．それによって，ケガレが浄化されると同時に赤ちゃんが社会へ入る儀礼でもある．

儀礼には，女性たちの担う役割が多いことが明らかになった．誕生の儀礼においては，「子結びの儀式」を担うのは，正妻の役目である．吳月娘に子供ができる妙薬をつくるのは，尼僧（薛尼）である（53回）．産婆が嬰児を取り上げ，洗三の儀式などの儀礼を取り仕切るのは，産婆である．数々の儀礼により，ケガレを祓う．

死の儀礼においては，遺体を洗い，衣服を着せるのは，女性の役目である．そして死を公告し，死人を泣くことによって慰めるのも女性たちである．死者のために食事を準備し供えるのも女性の役目である．女性たちが泣くことによって，故人への哀悼の意を表すとともに，葬儀を盛り上げる重要な役割である．

儀礼の場所は，結婚の儀礼は，外から内への儀礼であるのに対し，死の儀礼は，内から外へ送り出す儀礼であるので，より外部に近い院子も重要な儀礼の場所であり，大门は非日常的な境界となることが明らかになった．

誕生の儀礼は，出産のケガレの観念をもつ，ハレの儀礼であるが，この場所は，前稿の結婚の儀礼における特別な場所，つまり張で囲まれた小さな空間が儀礼の場所となる．ケの状態の時は，帳は開け放たれ，閉じられた状態の時，特別な場所として機能する．

また，生後 1 ヶ月の弥月の儀礼の場所は，すまいの中の「外」の場所である大厅が儀礼の場所となる．この場所は，死の儀礼の中心の場所でもある．このように設えにより，同一の場所がハレの場所にもケガレの場所にもなる．

死の儀礼は，社会的な儀礼である．これは，儒教思想による側面が儀礼の形式を支配しているものと考える．

家父長主義的な儒教思想の秩序が，家族のみならず，死の儀礼に参加するすべての人を支配している．それゆえに，服喪者だけではなく，雇われた葬式関連の職人，路上の見物の人たちと一体となって儀礼を行う．

儀礼の過程において，死者の場所が外部に近づき家庭内の生者から遠ざけられる．

参考文献

[1] Arnold van Gennep：「通過儀礼」，綾部恒雄ほか訳，弘文堂，p. 3，(1995)．

[2] 木村英一ほか編：「中国古典文学体系　論語・孟子・荀子・礼記」，平凡社，p. 462，(1970)．

[3] J・L・ﾜﾄｿﾝ/E・S・ﾛｳｽｷ編：「中国の死の儀礼」，西脇常記ほか訳，p. 195，平凡社，(1994)．

[4] 羅信耀：「北京風俗大全」，藤井省三ほか訳，p. 8，平凡社，(1988)．

[5]瀧本弘之編:「金瓶梅/紅楼夢　挿画集」遊子館 (2003).

[6] 王思義編集：「三才図会」，上海古籍出版社，(1995)．

[7] 浅川滋男：「住まいの民族建築学」，pp. 80-85，建築資料研究社，(1994)．

[8] 白維国編：「金瓶梅词典」，p. 7，中華书局，(1991)．

[9] 笑笑生，白維国 卜鍵 校註：「金瓶梅詞話校註」2，岳麓书社，p. 824，(1995)．

[10]前掲[4]，pp. 20-27.

[11]前掲[2]，p. 357.

[12]近藤啓吾:「四禮の研究」, pp. 20-27, 臨川書店, (2003).

[13]前掲[3]，pp. 25-26.

[14]前掲[1]，p. 140.

[15]前掲 [1]，p. 19.

[16]孟庆田：「《红楼梦》和《金瓶梅》的建筑」，青島出版社，pp. 159-199，(2001)．

[17]笑笑生：「金瓶梅」，小野忍，千田九一訳，平凡社，(1972)．

[18]黄霖：「金瓶梅大辞典」，巴蜀书社，(1991)．

[19]丁秀山：「中国の冠婚葬祭」，東方書店，(1988)．